



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第19号

2024年12月4日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

放課は思いっきり遊ぼう!!

日に日に寒くなっています。子どもたちが寒い寒いと言いながらも、元気に外に出て行く姿をよく見かけます。そこに、子どもたちよりさらに笑顔満点のSPさんが校舎から元気に出でてきます。そんな姿を見て、私も元気をもらっています。SPさんははじけるような笑顔と元気は、学校や子どもたちを明るくしてくれているように思います。

SPとして活動していた時、SPのことをよく気にかけてくださっていた先生から、「放課は一緒に思いっきり遊んでやってください。一緒に遊ぶことって大事ですよ。」と教えていただきました。当時は、「何がそんなに大事なのだろう。」とあまりピンと来ていませんでしたが、今、SPさんの姿を見ていると、「確かに大事だな。」と思います。

一緒に遊ぶと、子どもたちとの関わり方を学べます。子どもたちの世界に入ることは、想像以上に難しいものです。(だからこそ、“思いっきり”・“全力で”遊ぶことが大切なのかなあと思います。)また、教室では見せない姿、本音、子ども同士の人間関係を見る事もできるでしょう。トラブルに遭遇する場面も授業中より圧倒的に多いです。現場に出たシニアSPは口をそろえて、「SPの時にいろんな経験をしていたのですぐに対応できました。でも、子どものことを何も知らずに先生になっていたら、慌ててしまって何もできなかつたと思います。」と話しています。子どもたちと全力で遊ぶ大切なのは、現場に出るとより一層感じるようです。

←緒川小 平澤 SP

養護教諭を目指している平澤SP。「放課は子どもたちと遊んできてね。」と先生に言われたら、「やった！」と思わず声が出ていました。なんと素敵な反応！子どもが大好きなのが伝わってきました。その後、平澤SPを探しに外に出たら、中学年の男の子たちと一緒にドッジボールをしていました。自分から子どもたちの輪に入っていくのは勇気が要ったと思います。飛び込んでいける平澤SP、素晴らしい！



緒川小 竹内 SP→

温かい笑顔が素敵な竹内SP。優しい雰囲気で、子どもたちが自然に寄っていました。放課中、いろんな話を聞いて欲しい子どもたち。次々出てくる話題を、「うん、うん。」と終始笑顔で受け止めてくれていました。“自分の話を笑顔で、じっくり聞いてくれる大人の存在”は、子どもたちにとって貴重です。子どもの話をじっくり聞く(聴く)ことは意外と大変です。(親として、日々痛感しています……。)心の余裕、時間の余裕がないと、ついいつ何かを“しながら”になってしまいます。竹内SPの“聴く姿勢”、見習いたいです。

